



放射線を考える・放射線に関する出前講座

10月2日(水)法政大学の中岡章先生を講師にお招きし、3・4年生が放射線についての学習をしました。放射線に関する学習は、各学年必ず発達段階に応じて予定しています。しかし、なぜ放射線学習が必要なのでしょう。

放射線医療を専門にされている、東京女子医大の三橋紀夫先生は、このように述べています。

「我が国は、世界で唯一の原爆被爆国であるため、国民の多くは放射線に対する恐怖を抱いています。にもかかわらず、放射線に関する教育はどちらかというとながらにされてきました。

医学生に対する放射線被ばくや防護に対する教育ですら、たかだか2～3時間の講義枠があるにすぎません。多くの国民が福島原発の事故が起きて初めて、放射線に対する正しい知識を持ち合わせていないことに気づいたとも言えます」

確かに、大震災とその後発生した原発事故の後には、あふれるばかりの様々な情報が飛び交いました。有益なものもありましたが、根拠もなく、自分を見失ってしまうようなものもありました。

大人も子どもも、主体的に根拠のはっきりした情報を選び、活用していく力は、放射線のことに限らずこれからの時代ますます重要視されることだと思います。

以上のような理由で、本校でも放射線に関する授業を実施していきますが、指導者にも、放射線被ばくや防護に関する研修は、震災前まではありませんでした。

そこで、専門に研究されている方や、わかりやすい教材を準備できる方をおよびし、子どもたちと共に、指導者も研修する機会としました。

目に見えない放射線の飛び交う軌跡を見る霧箱の実験(昨年度6年生が授業参観でも実施)や、線量計で線量を測ってみることなど、3・4年生は夢中で取り組みました。基礎的な知識や、防護についての話も分かりやすく、2時間があっという間でした。

本校の今後の指導にも活かせるものでした。



放射線の飛跡観察
文科省御代田小で出前授業 郡山

文科省の山前授業 使った放射線の飛跡を三日、郡山市の御代田小で開かれ、児童が簡易放射線測定器で放射線について学んだ。

放射線への理解を深めてもらうと昨年度から催している。今年度の本県開催は初めて。三、四年生二十二人が受講した。

中岡章法政大講師が放射線の性質や身の回りの活用例を紹介した後、児童は特殊な箱を放射線の飛跡を観察する児童

福島民報
2013年10月4日(金)
12面(郡山)

ボランティア委員会のエコキャップ運動

本校の児童会ボランティア委員会の活動の中で、長年実施してきたペットボトルのキャップ集め。このたび計量したところ、101.8 kgと、100 kgを超えていたため、福島民友社に連絡し、回収していただきました。

たくさん集まったエコキャップを整理する子どもたちは、大変でも嬉しそうでした。各家庭からご協力いただいた他、最寄りのコンビニなどからもたくさん頂くなどして今年度はどんどん集まりました。

道路などに捨ててしまえば、困ったごみになってしまうものですが、集まったキャップが世界のどこかで役に立ってくれればと願います。



子どもたちにフクチンを
エコキャップ運動

7日

◆御代田小(郡山市)
101・8号、4万3774個

ボランティア委員会が放送や各学級で呼び掛けたほか、地域の人たちも学校に届けてくれました。

福島民友 2013年10月8日(火) 11面(郡山)

今週の予定

月 日	曜日	行 事
10月14日	月	体育の日
15日	火	特別非常勤講師来校(過足昌子先生) リディア先生来校 集会活動 特設陸上クラブ
16日	水	小体連陸上交歓会(5・6年生参加) 弁当の日
17日	木	弁当の日(陸上交歓会予備日のため)
18日	金	スクールカウンセラーさん来校
19日	土	週休日 PTA奉仕作業 7:00~ 資源回収 9:00
20日	日	週休日